ればとて、蕃薯とも稱せしなり、是本邦にしては後陽成天皇の文祿三年に當れり、其後百六十年餘を經て、清國の乾隆廿年乙亥の頃、（乾隆廿年は斯方寶曆五年なり）經倫五世の孫陳世元、其男雲相次て、鄞縣膠青豫等の州に種しより、漸く東浙の地に轉へ致しける、其始末は金薯傳習錄に詳にせり、されば西土へ流傳せしは甚近し、

甘藷栽培

〔成形圖說二十五穀〕唐芋（カライモ）（是專俗の通稱なり○中略）

此藷春暖新芽を發す、其莖紫色を帶び、漸く蔓をなし、節あり、其節地に著ば根鬚を生じ、地につかざれば葉を生ず、葉は蕺菜（シブキ）の葉に似たるあり、又三尖を成して牽牛子葉に似たるあり、南方の暖地にては、秋淡紅花を開く、夕顏の形と相同じ、其根塊を成し、子母鉤連して五六相簇つく、其塊皮紫赤色なるもの多し、亦白あり、深紅あり、淺紅あり、淡黃あり、濃黃あり、淡紅白の二色をなすあり、形ちは圓にして長し、本末皆銳りて末には少し細鬚あり、肉の質理膩潤ありて、其色は白と黃との二つなり、氣味は甘平無毒、生熟俱に食べし、○中略凡此ものは二月なかば、園圃中日あたり宜しく、南向の暖地をえらみ深く耕し、故藁類をきりこみ、馬糞を覆ひ、地の溫に和ぐ樣にして、藷塊を縱に稠くうゝる也、又其半を出し、半に土をかけ置もあり、都而土を覆ふも宜し、さて上には腐りたる茅藁類を覆ひ置ば、三月に至り芽を叢生し、漸く蔓をなす、是を苗床といふ、蔓一二尺に及ころ、細雨中もしくは雨後の曇りたる日をえらみ、芽を缺とり、別に耕し拵らへ置たる畑に、二尺ばかりづゝ間を明け、横相距こと七八寸間に種べし、是をかぎうゑといふ、（苗床一歩に藷塊四五斗をうゑ、一ばん苗にて二三畦にうゑすなり、）はじめてかぎとりたるを一ばん苗といふ、又跡に出芽したるを二ばん苗三ばん苗といふ、四月初より六月の初までは殖るなり、二三ばんの苗を種るときは、一ばん苗にて種置し蔓成長（ノビタチ）ぬるゆゑ、是をきりても種るなり、農業全書等に、旱せば水を瀉ぐなどいへども、手廣く種れば民力及ばず、故に雨後に種置時は、何樣の烈日にも活（ツカ）ずといふことなし、如此種終りて、夏の